

動けなくなることで、
見えてきたもの

風は生きよという

宍戸大裕 監督作品

呼吸器から吹く風に乗れ、つながりあう人と人との物語

監督・撮影・編集・ナレーション：宍戸大裕 音楽：末森樹 整音：米山靖 アニメーション：植田秀蔵 撮影協力：神吉昌雄 高橋真二
宣伝写真：齋藤陽道 宣伝デザイン：玉利公節 助成：公益財団法人 キリン福祉財団 企画・製作：全国自立生活センター協議会
配給：「風は生きよという」上映実行委員会 2015年/日本/81分/ドキュメンタリー

www.kazewaikiyotoiu.jp



文部科学省特別選定
少年、青年、成人、家庭向き

「出来ないことがすていたくさんある中で、
障害者が出来る大きい仕事ってというのは、
外に出て人目について、
人の意識の中に障害者の存在を
ちよっこでも根付かせていくこと」

存在を否定され、死ぬ自由を突き付けられ、
それでもなお地域社会に分け入っていく勇敢な呼吸器ユーザーたち。
今までこんな風に彼らを見たことはなかった。
存在理由を獲得していく彼らの姿が逞しく眩しく映っていた。
世界を救うヒーロー・ヒロインに見えてきた。
川口有美子【作家・日本ALS協会理事】

人工呼吸器は、呼吸を助ける道具です。
そこから吹いてくる風が、人と人とをめぐり合わせてくれます。

風は生きよという

追い風は、ときどき前からふいてくる。

もしもあなたが、病気や障害のために身体を動かさなくなったら、どんな人生を想像しますか？

映画が映し出したのは、ふつうの街でふつうの生活を送る人びと。
特別なことといえば、呼吸するための道具・人工呼吸器を使用していることくらい。淡々とその生活を映し出し、歩んできた人生を見つめた時、浮かんできたのは日常の尊さ。たくさんの支援が必要だからこそ、多くの人に会え、自由に動くことができないからこそ、生きてあることに感動する。じんわりとところを揺する、人と人とが織りなす物語。

もしもあなたに、思うように身体を動かさない、そんな日が来た時は思い出してほしいのです。映画の中を駆け抜けていた、風の音を。その風に包まれた人と人とが、支えあひながら生きていたことを。



【お問合せ】「風は生きよという」上映実行委員会

〒192-0046 東京都八王子市明神町 4-11-11 シルクヒルズ大塚 1F (全国自立生活センター協議会内)

TEL:042-660-7747 FAX:042-660-7746 Mail:kazewaikiyotou@gmail.com

2015年/日本/81分/ドキュメンタリー www.kazewaikiyotou.jp

【人工呼吸器とは？】

障害や病気により、肺を動かす筋力が弱い人たちの呼吸を補助する医療機器です。様々な種類があり、かかりつけの病院からレンタルされています。呼吸の回数や量、リズムなどを細かく設定することで自分に合った呼吸ができます。



日時 2016年2月6日(土) 13:00~(字幕付)
上映後、海老原宏美さん(出演者)によるトークがあります。参加費500円
会場 ハートフルスクエアG2F 研修室50 (JR岐阜駅東隣)
連絡先 NPO法人 障害者自立センターつかいぼう
TEL:058-215-7374 FAX:058-296-5343